

2025

全学共通教育科目
GUIDEBOOK
Itabashi Campus



生きぬく技を身につける

私らしい道で

生きぬく技を身につける

現代社会は変化が激しく予測不能なVUCAの時代といわれています。「唯一の正解」は存在せず、学んだ知識もどんどん新しいものにアップデートされていきます。このような社会では、高い専門性に加えて時代に応じた幅広い教養が必要不可欠です。そのため、東京家政大学の全学共通教育科目では、建学の精神（自主自律）と生活信条（愛情・勤勉・聡明）を中心とした「時代を超えた普遍的な人間性（ヒューマニティー）」を核として、現代社会で必要とされる知識・スキルをすべての家政大生が共通して身につけます。そして、これらを専門教育科目の学びと融合させることで、専門分野の枠を超えた新しい価値の創造を目指します。

東京家政大学における「全学共通教育科目」は、本学が育んできた人間性（ヒューマニティー）の科目を核として、現代社会を生きぬく5つの技を身につけるための〈ダイバーシティ&インクルージョン〉、〈サステナビリティ〉、〈グローバル・コミュニケーション〉、〈データサイエンス×デザイン〉、〈ヘルス&ウェルビーイング〉で構成されるカリキュラムとなっています。

全学共通教育科目

専門教育科目

学びの
ポイント

01. 人生に必要な普遍的な力を身につける
02. 現代社会に必要な知識とスキルを身につける
03. 自身の専門的な学びに、さらなる価値と実行力を付加する
04. 学部・学科の枠を超えて、横断的に学べる

ヒューマニティー

Humanity

自主自律の精神を核として、現代社会をしなやかに生きる人間力を育むための科目群

ダイバーシティ & インクルージョン

Diversity & Inclusion

多様なものを受け入れ尊重し、共生社会を創る力を養うための科目群

サステナビリティ

Sustainability

持続可能な未来社会を創造する力を養うための科目群

グローバル・コミュニケーション

Global・Communication

多文化共生の場面で人々とかかわる力を養うための科目群

データサイエンス×デザイン

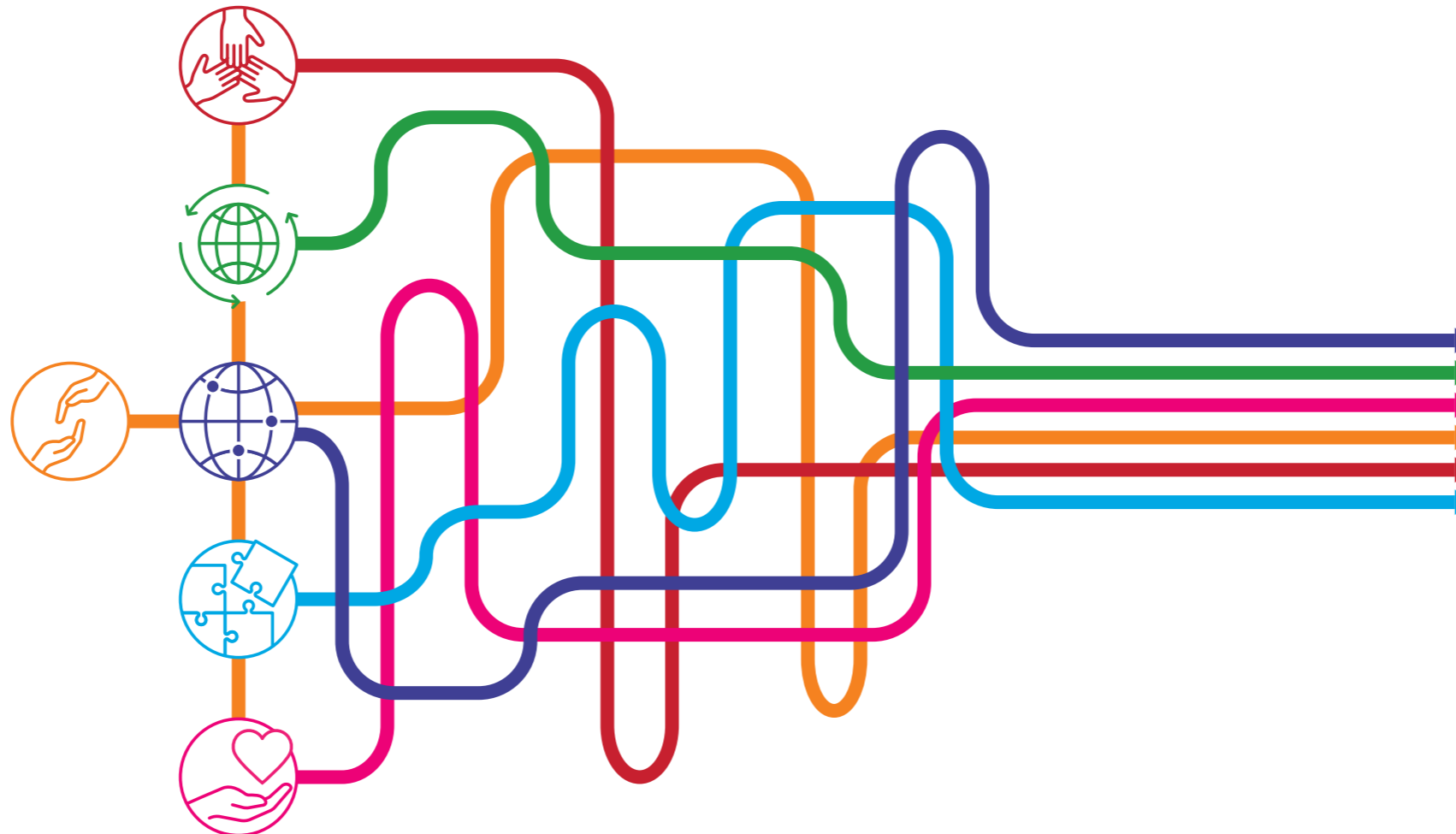
Data Science × Design

社会課題に取り組み、新しい価値を創造する力を養うための科目群

ヘルス&ウェルビーイング

Health & Well-being

人々の心身の健康とウェルビーイングを実現する力を養うための科目群



自他の可能性を拡げ、
人がつながる社会へ

INDEX

P 01 生きぬく技を身につける〈6つの学びの分野〉

P 02 INDEX

P 03 全学共通教育科目・抽選科目の履修について

P 04 ヒューマニティー

P 11 ダイバーシティ&インクルージョン

P 16 サステナビリティ

P 20 グローバル・コミュニケーション

P 25 データサイエンス×デザイン

P 28 ヘルス&ウェルビーイング

P 32 人間力育成実践科目〈キャリア形成支援講座／実践力養成セミナー A・B〉

P 35 人間力育成実践科目〈Kポイント8〉

P 38 教職課程科目

ガイドブック略称・表記について

各科目の一覧表の表記について

	数字のみ	講義
単位数	[]	演習
	()	実験・実習及び実技
標準開設年次	◎	通年
	○	前期または後期
	◇	閉講期がクラスによって異なる
他学科		他学年履修可能(履修者数等の関係で許可されない場合もある)

免許・資格の略称について

教必	■幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状 必修
	■中学校教諭一種・二種免許状・高等学校教諭一種免許状 必修
	■栄養教諭一種・二種免許状 必修
	■養護教諭一種免許状 必修
教選必	■幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状 選択必修
	■中学校教諭一種・二種免許状・高等学校教諭一種免許状 選択必修
	■栄養教諭一種・二種免許状 選択必修
	■養護教諭一種免許状 選択必修
公教必	■高等学校教諭一種免許状(公民) 必修
社教必	■中学校教諭一種免許状(社会) 必修
家教必	■中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校教諭一種免許状(家庭) 必修
理教必	■中学校教諭一種免許状(理科)・高等学校教諭一種免許状(理科) 必修
保育士必	■保育士資格 必修
保育士選必	■保育士資格 選択必修
保育士選	■保育士資格 選択
図書必	■図書館司書資格 必修
社教主選	■社会教育主事基礎資格 選択

全学共通教育科目 | 履修について

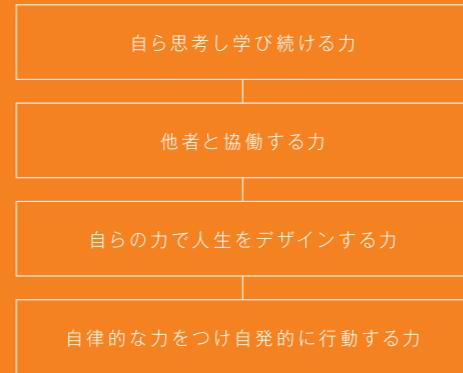
- 全学共通教育科目は24単位以上の修得が卒業要件となっています。そのうち、ヒューマニティーで6単位、グローバル・コミュニケーションで2単位(健康科学部と英語コミュニケーション学科以外は4単位)、データサイエンス×デザインで2単位が必修となっています。さらに、ダイバーシティ&インクルージョン、サステナビリティ、ヘルス&ウェルビーイングからそれぞれ2単位以上が選択必修となっています。
- 履修者数が5名以下の場合には原則として開講しません(資格・免許取得に関わる科目を除く)。

抽選科目 | 履修について

- 抽選科目はそれぞれ定員が決められており、抽選方式で履修者を決定します。そのため、受講を希望しても履修できないことがあります。
- 抽選によって履修者を決める科目は、木曜日の1・2・3時限に開講されます(メディア授業を除く)。履修希望を出す際は時間割表を十分確認し、**学科の専門教育科目と重ならないように注意してください。特に1年生は、前期の「スタートアップセミナー自主自律」の時間と重ならないように注意してください。**
- **抽選で当選した科目の履修取消はいかなる理由においても認められません。**
- 抽選科目は標準開設年次を1~4年次としています。専門教育科目と重ならず、CAPの範囲内であれば履修することができます。
- 授業科目により同一科目が複数のクラスに分かれている場合、それぞれに異なる講義コードが付与されています。抽選科目のメディア授業で、同一科目に複数の講義コードがある場合は、いずれか一つの講義コードを選択して抽選申請してください。
- 詳細については、この他に「学生便覧」「シラバス」「履修ガイド&時間割表」「ポータルの手引き」を参照してください。

自主自律の精神を 核として現代社会を しなやかに生きる人間力

〈ヒューマニティー〉では、時代を超えた人間性を育むことを目的として、自主的・自律的に生きる力、自ら考えて学び意見を述べる力、社会との関わりを考える力、他者と協働する力、そして自らの人生をデザインする力です。ヒューマニティー領域の中核をなす〈コア科目〉として、4つの必修科目「スタートアップセミナー 自主自律」、「基礎ゼミナール」、「キャリアデザイン I」、「キャリアデザイン II」が開設されています。それ以外の科目では、「人間」、「生活」、「人生」などのテーマについて、家政学、哲学、心理学、文学、芸術などの学問領域の学びを通して理解を深め、しなやかに生きるための力の育成を目指します。



ヒューマニティーの学びで身につく力

【抽】…抽選対象科目

区分	科目名	メディア授業	単位数	必修別	標準開設年次								開設学科・専攻													
					1		2		3		4		服美	環共	表現	栄養	管理	児学	育支	初教	英コミ	心カ	教福			
					前	後	前	後	前	後	前	後														
ヒューマニティー	スタートアップセミナー 自主自律		[2]	必	○										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	基礎ゼミナール ※1		[2]	必	○										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアデザイン I ※2		[1]	必					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアデザイン II ※2		[1]	必					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 家政学原論	○	2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 哲学		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 心理学	○	2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 生活経営学		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	家庭経営学		2	選	○										○											
	【抽】 ライフデザイン入門		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 芸術論		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 子どもの世界		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 人間と学びA (心と行動の科学)	○	2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 人間と学びB (学び方を学ぶ)		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 人間と学びC (文学と人間)		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 人間と学びD (子どもと芸術をめぐる)		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 人間と学びE (しなやかな心とからだ)		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 人間と学びF (美しい文章の書き方)		2	選					○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈履修の詳細については学生便覧、時間割表などを確認してください。授業内容の詳細についてはシラバスなどを確認してください。〉

※1 開講期は学科・専攻によりことなる

※2 開講年次・開講期(通年隔週を含む)は学科・専攻によりことなる

Column 在校生の声

「いろんな分野の科目があって、自分で選べる自由度が高かったんで、自分がどんなことに興味を持っているのかをはっきりと知ることができました！」 児童学科 T・S



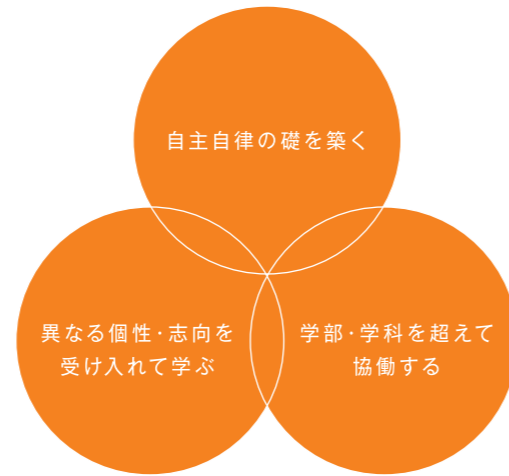
ヒューマニティー

| スタートアップセミナー 自主自律

私立大学(私的な組織)には、その創立の目的・理念である独自の「建学の精神」があります。東京家政大学における建学の精神は「自主自律」です。その「自主自律」を貫くうえで大切な日々の生き方は、愛情・勤勉・聡明という生活信条として表現されています。一人ひとり異なる個性を持つ個人(私)が、自らの多様性に合致した学びの“場”として、東京家政大学を選んで入学しています。学部・学科が異なれば興味や志向性も異なり、将来の目標も多様です。この授業はそのように異なる個性を持つ個人(私)同士が、学部・学科を超えて共に「自主自律」の礎を築くことを学修目標とした初年次教育コア科目です。

この授業には大きな特徴が二つあります。一つは、異なる学科の学生5名程度でグループを作り、目標達成のために互いに協働して学ぶ点です。最初の授業では、協働で学習を行うためのポイントを共有します(グループ活動に苦手意識がある人も安心して臨めます)。その後、東京家政大学の歴史を学びながら「自主自律」の礎を意識したところで、社会に向き合うプロジェクトに取り組みます。14回の授業を終えるころには、東京家政大学生同士の絆が生まれ、一人ひとりが自主自律の道を歩み始める準備ができています。

特徴の二つ目は、上級生がスチューデント・アシスタント(SA)として協働学修をサポートする点です。学修者は、SAである先輩の姿に進級した自分の未来像を重ねながら協働学修に取り組むことになります。



ここがポイント!

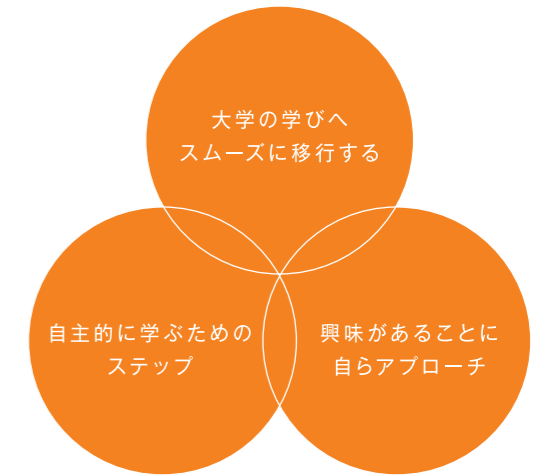
異なる学科の学生5名程度でチームを作り、目標達成のために互いに協働して学ぶ科目です。学生一人ひとりが主体的に学ぶことを大切にします。上級生がスチューデントアシスタントとして授業を補助することも、この科目の大事な特徴です。

| 基礎ゼミナール

本科目は、「スタートアップセミナー自主自律」と並んで重要な初年次教育科目であり、高校での学びから大学での学びへスムーズに移行することを目的として開講されます。また、「基礎ゼミナール」は「スタートアップセミナー自主自律」、「キャリアデザインI」、「キャリアデザインII」とともに全学共通教育科目のコア科目として位置付けています。

高校での学びは、どちらかというと受動的に知識を吸収することを求められることが多かったのではないのでしょうか。大学では、学修の目的と意味を考えて、興味のあることに自らアプローチして研究し、発信することが求められます。そのため大学の教員はみなさんと同じ目標(平均的な目標)に向かわせる導き手ではなく、それぞれが描く多様で独自の未来に近づくためのサポーター的な存在であると思ってください。

この授業を通して、聴く・話す・読む・書くことの基礎力を身に付けるとともに、文献の探し方やレポートの書き方等を学び、みなさんが大学での学びに自主的に取り組むステップとしてください。



ここがポイント!

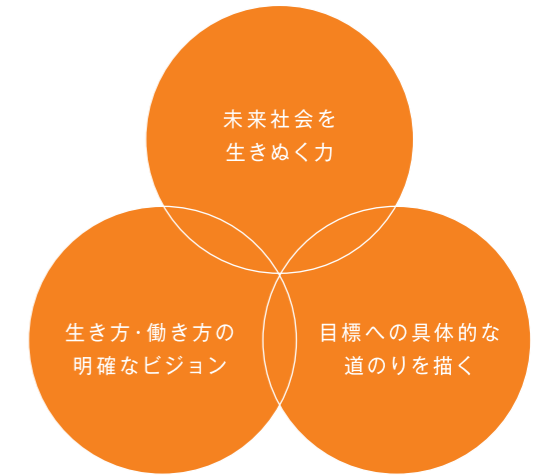
みなさんが所属している学科の専門科目もすべて基礎的な学びの延長にあります。また、大学での4年間は社会への架け橋となる重要な期間です。将来へ向けて、充実した大学生活となるよう、学びと生活のあり方を考える機会としてください。

| キャリアデザインI・II

先行きが不透明な21世紀の社会を生きぬくためには、主体的に考え自主的に行動する能力が求められます。自分が大切にしている価値観を意識することが、それぞれの生き方という個性を明確にすることにつながります。この授業を通して自分の適性や価値観を知り職業選択への積極的な姿勢を養う機会としてください。

職業選択の際には、仕事を通して自分が担う役割について、明確なビジョンを持っていることが求められます。そのためには、自分自身の特徴、進もうとしている社会や業界の現実を知ることから始まります。社会で活躍している方や卒業生である先輩方の話を聞いて、求められる社会人像を理解するとともに、自己分析や自分のスキルを確認し、学修へのモチベーションを再確認してください。そして、一生を見据えて、自分の生き方や働き方について考え、目標への具体的な道のりを描いてみましょう。

「キャリアデザインII」は「キャリアデザインI」の内容を踏まえて構成されていますので、事前に「キャリアデザインI」の単位修得が履修条件となります。また、各学科により授業の構成は異なります。



ここがポイント!

社会人としての意識を高め、独立したひとりの女性として自主的・自律的な生き方を考え、また社会とのつながりを持ちながらライフサイクルを考えて、キャリアとプライベート、両方のライフプランを具体的にイメージする機会としてください。

家政学原論

家政学とは、家庭生活を中心とした人間生活と環境との相互作用について研究し、その発展に資する学問です。「家政学原論」では、その内容や歴史、日常生活や社会に対する家学的なものの方について、幅広く学びます。当たり前だと思われる日常にも、研究対象となる学びはたくさんあることが理解できると思います。

ここがポイント! 東京家政大で学ぶみなさん、ぜひ家政学の考え方やものの方を学びましょう。日常生活を科学してみませんか。

担当教員 | 野崎有以

哲学 ★

公教必

私たちは自分自身のことを知っているのでしょうか?例えばなにかを「楽しい」と思うとき、私たちのなかではなにが起こっているのでしょうか?そう問われると、科学的な知識に頼ってみたいくなりますが、それは自分自身のことを他人目線で理解することにほかなりません。あなたにとって、あなた自身、あなたの生きる世界とはどのようなものなのでしょうか?

ここがポイント! ぜひ大学生のうちに自分自身や世界のことについてじっくり考えてみましょう。哲学は正しく、そして強く考えるための学問です。

担当教員 | 峯尾幸之介

心理学

私たちは、物事を知り、感じて、考えて、行動する生き物です。しかし、この当たりの事実の背後にある「仕組み」については、実は多くのことがまだ明らかになっていません。この授業では、この「仕組み」を、心理学の先人たちがどのように理解しようとしてきたかを勉強していきます。

ここがポイント! この授業が終わる頃には、自分自身や他者について、少し詳しくなることができます。

担当教員 | 荻島大凱

生活経営学 ★

保育士選

生活経営学は、家政学の一領域です。私たちの生活をお金・時間・人間関係など様々な面の総合的なマネジメントから考えるとき、個人の利益だけでなく、社会全体の持続可能性まで考慮する必要があります。家族・経済・環境・情報・福祉・サステナビリティなどを学際的に学び、我々の暮らしを主体的に考えていくきっかけとなる科目として行きます。

ここがポイント! 私たちの生活や社会を主体的に創り上げて行くための知識を、持続可能性、経済、経営、家族論など様々な視点から学び議論します。

担当教員 | 光畑由佳

家庭経営学 ★

家教必

家庭経営学は、家政学の一領域です。私たちの生活をいかに創り上げて行くかということ、利己的立場だけではなく社会の持続可能性を考慮して考えます。家庭を含めた生活は、家族・経済・環境・情報・福祉等多くの側面と切り離すことはできません。それらを踏まえ、これから私たちが自分の暮らしを主体的に考えて行けるようなきっかけとなる科目です。

ここがポイント! 私たちの生活を主体的に創り上げて行くために必要な知識を、身近なことから勉強します。

担当教員 | 平野順子

ライフデザイン入門

ライフデザインとは、理想とする人生の夢や目標をいつどのような形で実現させていくかを積極的に計画することです。この授業では、社会で活躍する卒業生を幅広くゲストスピーカーとしてお招きします。年代の異なる先輩方が歩んできた人生と学びに触れ、刺激を受けながら、自身の姿勢を見つめ直し、今後の目標を定め、この達成に向けた計画立案ができることを目指します。

ここがポイント! 時は異なりますが、本学の建学の精神と生活信条のもとで学んできた先輩方のお話に耳を傾けながら、現段階における自分の生き方と目標について考えてみましょう。

担当教員 | 塩入輝恵 / 大塚有里

芸術論

古代から現在に至るまで、音楽、美術、演劇や舞踏等はずねに人間と共にあり、その生活を豊かにしてきました。私たちはなぜ芸術が必要なのか。そしてなぜ芸術活動をするのか。芸術作品を前にしたとき、なにが起こるのか。美術だけではなく、音楽、舞台芸術、文学、映画などの本質にアプローチし、芸術の意味と今日の芸術の意義を考え、能動的鑑賞を学びます。

ここがポイント! 芸術作品に対峙する際に制作・鑑賞双方に必要な能動性を学び、実践に役立てることができます。

担当教員 | 手嶋尚人 / 池宮中夫 / 曾根博美 / 宮田みな美 / 吉野裕之

子どもの世界 ★

保育士選

子ども時代を経て成長した私たちは、その経験をもとに目の前の子どもたちを理解できるでしょうか。高度情報化社会に生まれる子どもたちにとって当たりの「子育て環境」は、大人には前例のない「子育て環境」です。「子どもの世界」にみられる不変性と社会性・時代性を学びながら、子ども時代は人の生涯にどのように位置づけられるかを考えましょう。

ここがポイント! 大人と異なる乳幼児の感覚や認識、生活環境と繋がって形成される「子どもの世界」について学び、子どもへの理解を深めます。

担当教員 | 是澤優子

人間と学びA(心と行動の科学)

知覚、記憶、思考、学習、他者の影響などに関する心理学の基礎知識を学び、日常における人の行動について考察します。私たちの記憶は正確か、どうしたらうっかりミスを減らせるか、行動を変えるためにどんな工夫ができるか、なぜ迷信を信じてしまうのかなど話題を取り上げ、これらに関する心理学の知見を学び、人間行動への理解を深めていきます。

ここがポイント! 授業中に簡単な実験や調査、ワークなどを実施し、日常の行動について考えながら心理学の基礎知識を学びます。

担当教員 | 佐藤隆弘

人間と学びB(学び方を学ぶ)

学ぶこと=学習は、学校だけでなく私たちの生き方と深く関わり、時代とともに大きく変わってきています。従来の知識・スキルを「蓄積する学び」から、「活用する学び」への大転換が世界中で実践されています。従来の学習観を経験と理論から振り返り、21世紀型の学習観の現在を確かめることで、これからの自分の学び方を再確認し、構築する内容です。

ここがポイント! 学ぶ意味を考え、自分自身を成長させていく視点が持てる授業です。教職志望者には、従来の学習観と21世紀型の学習観の差異を知る内容でもあります。

担当教員 | 結城孝雄

ヒューマニティー

| 人間と学びC (文学と人間)

現実はあるあなたの「ことば」によって作られると言われたらびっくりしますか? そうであれば、物語を読むことは作品の世界に入り込んで楽しむだけでなく、自分自身の物語を作ることにもなります。小説やファンタジーの主人公の物語がどのように語られているのか読み解く方法を学び、自分の物語として考える方法を学ぶことで、文学と人間とのかかわりについて考えます。

ここがポイント! 子どもは純粋なのか残酷なのか、時代によって考え方が異なることを、小説、ファンタジー、映画を通して読み解く方法を学びます。

担当教員 | 向井秀忠

| 人間と学びD (子どもと芸術をめぐって)

芸術は人にエネルギーを与えます。この講義では、人の成長に造形表現・芸術がどのような関わりを持ち、その役割を果たすかについて、複数の講師の経験をもとに実践例等で学んでいきます。前期の授業では、主に小学生期の関わりについて。後期の授業では乳幼児期の関わりについて学びます。どちらかを選択してください。

ここがポイント! 子どもの成長に芸術の面に関わっている先生方に、様々な視点からその意義について講義してもらいます。

担当教員 | 前期: 結城孝雄 / 齊藤紀子 / 居上真人 / 濱口由美
後期: 手嶋尚人 / 金山和彦 / 伊藤史子 / 栗山由加 / 松澤綾子

| 人間と学びE (しなやかな心とからだ)

人と人とのつながりをとりもつバーバル・コミュニケーション(ことば)とノンバーバル・コミュニケーション(ことばならざることば)に着目し、その役割や有効性といったものをプレイ、ムーブメント、ドラマ、ソングといった表現活動から体感するとともに、芸術的活動が心身の成長や他者とのコミュニケーションに及ぼす創造的作用について体験的実証的に考えていく。

ここがポイント! しなやかな心とからだを涵養するための知見と方略を、2人の講師によるワークショップを通して探究します。

担当教員 | 花輪充 / 吉村温子

| 人間と学びF (美しい文章の書き方)

美しい文章とは、華美な装飾を施した文章のことではありません。執筆の目的や論理が明確で、書き手の思いや考えが読み手に的確に伝わる文章のことであると考えます。意見や情報を効果的に伝達する力を養い、わかりやすい文章を作成するための基礎を学んでいきましょう。授業では、自己PR、敬語を用いた手紙文、論理的な文章による小論文等を作成します。

ここがポイント! 文章表現に関する知識と技術を身に付けることができます。じっくりと取り組んでいきましょう。

担当教員 | 渡邊重人



ダイバーシティ & インクルージョン

多様なものを 受け入れ尊重し、 共生社会を創る力

多様な存在を互いに認め合い、多様性を活かしながら、ともに力を発揮できる共生社会の実現に向けて世界は進んでいます。日本でも同様に、多様性と共生の本質を理解し、その実現に貢献できる人材が社会のあらゆる分野で求められています。このような動向を背景として、この領域ではダイバーシティ & インクルージョン(性別、年齢、障がい、国籍、ライフスタイル、職歴、価値観等にかかわらず、多様性を互いに尊重し、認め合い、よいところを活かすこと)の考え方を中心に、人、社会、環境など多岐にわたる共生について学修し、社会でその学びを実行する力を養います。

多様な存在・価値観を包括して活かす力

互いを尊重し共生社会を実現する力

社会や人間関係の理解

自分のバイアスに気づき克服する力

ダイバーシティ & インクルージョンの
学びで身につく力

【抽】…抽選対象科目

区分	科目名	メディア授業	単位数	必選別	標準開設年次								開設学科・専攻												
					1		2		3		4		服美	環共	表現	栄養	管理	児学	育支	初教	英コミ	心カ	教福		
					前	後	前	後	前	後	前	後													
ダイバーシティ & インクルージョン	【抽】コミュニケーション論	○	2	選				○																	
	コミュニケーション論		2	選	○										○					○	○	○			
	【抽】ジェンダー論に学ぶ		2	選				○																	
	【抽】多様な社会を生きる	○	2	選				○																	
	【抽】日本の歴史 ※1	○	2	選				○																	
	【抽】社会学	○	2	選				○																	
	日本国憲法 ※2		2	選	○																				
	【抽】経済学	○	2	選				○																	
	【抽】社会と多様性A(手話に学ぶ)		2	選				○																	
	【抽】社会と多様性B(生老病死とケア)		2	選				○																	
	【抽】社会と多様性C(共生社会を生きる—インクルージョン)		2	選				○																	
	【抽】社会と多様性D(人間の多様な文化)	○	2	選				○																	
	【抽】社会と多様性E(暮らしと法)		2	選				○																	
	【抽】社会と多様性F(サブカルチャーから見る日本)	○	2	選				○																	
【抽】子どもとソーシャルワーク	○	2	選				○																		

〈履修の詳細については学生便覧、時間割表などを確認してください。授業内容の詳細についてはシラバスなどを確認してください。〉

※1 日本の歴史: 令和7年度は、教育福祉学科の2年生以上のみ非抽選の専用クラスの履修となる。

※2 日本国憲法: 開設年次・開講期は学科・専攻により異なる

Column 在校生の声

「取りたい資格があったので、選択を間違えないかちょっと緊張しました。でも、クラスの友達と相談したり、履修相談を活用しながらしっかり選べました!」 教育福祉学科 N・K



コミュニケーション論 ★

社教主選 図書必

誰もが日常的に、意識することなくコミュニケーションを行っています。でも、コミュニケーションに正解ってあるのでしょうか。TPOに応じた振る舞いはあるとしても、それが唯一無二の正解とはならないでしょう。そこで、先人たちが執り行ってきたコミュニケーションをキー概念とする洞察を学び、目の前に浮かぶ選択肢を分析・取捨する一助としましょう。

ここがポイント! 主に社会学・心理学的思想を学び、日常におけるコミュニケーションの諸相に対して適切に把握・応答する知見を身につけます!

担当教員 | 今井信治

ジェンダー論に学ぶ

ジェンダーとは、社会や文化によって決められる男女の行動・習慣・意識等を差す言葉です。私たちの生活はジェンダー概念と深い関わりを持っています。本講義では、教育、就労、家族、パートナーシップ、ケア等、身近なテーマを取り上げ、私たちが生きる社会や文化のあり方についてジェンダーの視点から考察します。

ここがポイント! 講義を通して、日常に溢れる「当たり前」をジェンダーの視点で問い直し、自分とは異なる捉え方・考え方への理解を深めましょう!

担当教員 | 青木由香

多様な社会を生きる

この講座では「多様」な社会における公平、マイノリティ課題とは何かを考えていきます。対人援助の実践上、多様な社会における人権課題の基礎的知識と意識を持つことは重要です。無意識下で起こっている差別について考えていきましょう。現代日本社会におけるダイバーシティについて、日常生活事例から話し、具体的な多様な社会を生きる実践へと繋げていきます。

ここがポイント! セクシュアリティ、在日外国人の在留、障害の有無に関わる課題を、より身近なこととして捉えていきましょう!

担当教員 | 渡邊さゆり

日本の歴史 ★

社教必

「暗記が苦手で歴史が嫌い」という人が多いのではないのでしょうか。本講義では歴史をめぐる「常識」を常に疑問視し、歴史的にモノを考えるとどのようなことかの理解や、日本社会の実相を掘り下げて学びます。地域に残る史資料も活用し、大衆心理や女性史・社会史等を加味した授業を展開します。歴史を学ぶと現代社会が見え、多様性理解や人権意識も高まりますよ。

ここがポイント! 小学校・中学校教諭・学芸員・公務員等、教育や地域に関わる職の志望者には特に参考になるでしょう。ぜひ受講してください!

担当教員 | 中尾浩康

社会学

本講義では、社会学理論を中心に社会的想像力、社会構造、文化、ネットワーク、権力、機能、社会的相互作用、地位と役割などの社会学の基本的な概念について学びます。そして、皆さんが日常生活で経験する身近な社会現象をどのように理解するのか、すなわち、個人的な経験がどのようにして社会過程によって作られるのかについて学習します。

ここがポイント! 私たちが日常生活で経験する個人的な出来事を社会的な視点で読み解く力を身につけたい学生はぜひ受講して下さい!

担当教員 | 李命姫

日本国憲法 ★ 教必 保育士選

日本国憲法をその成立の経緯からはじめ、象徴天皇制、戦争放棄などをまず理解し、中心的な内容である基本的人権を講義します。現代において、自己決定権、環境権、プライバシーの権利などの新しい権利も生まれているので、これらをできるだけ具体的な事例に基づいて考えます。自由な議論も基礎には、法的に確立した原理があると分かるように憲法の学習をすすめます。

ここがポイント! 日本国憲法の国民主権、平和主義、基本的人権の尊重などが、我々の日常生活でどのように生かされているのかが分かるようにします。

担当教員 | 竹嶋千穂 / 村山貴子

経済学 ★ 社教必 公教必

経済学は現実の経済社会を分析対象とします。市場における需要と供給を取り上げ、価格や取引量が決定される過程を明らかにします。こうした市場の機能に加えて、現実の市場で生じる諸課題を取り上げ、経済政策や政府の役割を検討します。身の回りの行動が経済現象に関わっていることを認識し、経済的な視点を持つ重要性を理解します。

ここがポイント! 市場の活動を通して、資源の効率的な配分が達成されることを理解するとともに、政府や経済政策の役割を理解します。

担当教員 | カシュウコウ / 吳東錫

社会と多様性 A (手話に学ぶ)

「日本手話」は、皆さんが日ごろ話している日本語とは異なる体系をもった言語です。文法的な働きをもつ顔の表情や視線などで発せられたメッセージを目(視覚)で受け取る「視覚言語」です。音声とは違ったコミュニケーション様式(モード)に慣れ、ろう文化に接することで、多文化共生社会の一員として日本手話を少しでも話せるようになることを目指します。

ここがポイント! 手話の様式(モード)に慣れ、コミュニケーションを円滑にすすめるための手だて(ストラテジー)を身につけられるようにします。

担当教員 | 村越啓子 / 和田令子

社会と多様性 B (生老病死とケア)

老いることも死ぬことも、人間という儂い生き物の美しさです。また私たちは独りで生きているのではなく、他者たちと共に、ケアケアされる関係を生きています。本授業では、大学生の心身問題から話を始め、哲学と宗教における自己、他者、世界についての考えを学び、現代社会で直面する具体的な問題を解決していくための実践的な力を身につけることを目指します。

ここがポイント! 哲学や宗教、思想、現代社会の諸問題に幅広く関心を持ち、それらについてグループワークを通じて話し合うことができます。

担当教員 | 中山純一

社会と多様性 C (共生社会を生きるー インクルージョン)

共生社会(インクルージョン)とは、多様な人々がそれぞれの個性を生かしながら共に生きること。現実にある差別や偏見、貧困、虐待など不利益や生きづらさを知り、私たちにできることは何か、一緒に考えていきたいと思えます。国連「持続可能な開発目標(SDGs)」を意識し、「Leave no one behind(誰一人取り残さない)」活動として前期は多分野、後期は障害に焦点を当てます。

ここがポイント! 現代社会に生じている様々な「生きづらさ」について理解し、その解決に向けて自らの意見を考え、述べるすることができます。

担当教員 | 若井広太郎 / 小島直子

社会と多様性 D (人類の多様な文化)

世界各地の多様な文化を、講義と映像から学びます。人類はそれぞれの環境の中で、より良く生きるための経験や知恵を文化として育んできました。異なる文化は他者には奇異に映るかもしれませんが、当事者の立場で捉えれば、自然なものです。信仰、神話、儀礼など毎回のテーマを変えながら、他者への理解を深め、柔軟な思考を養うとともに、人間の本質を探究していきます。

ここがポイント! 様々な文化を比較の視座から学び、それらの違いから、自身のアイデンティティを再確認し、物事を客観的に捉える視野を養います。

担当教員 | 高橋孝代

社会と多様性 E (暮らしと法)

授業内容についてはシラバスをご確認ください。

社会と多様性 F (サブカルチャから見る日本)

海外から見たとき、現代の日本文化を代表するものは何でしょうか。アニメ?マンガ?それともラーメン?日本の文化のフロントランナーは、今やサブカルチャであるかのように見えます。若者世代の文化を超え、国際マーケットにも進出した日本のサブカルチャをめぐって、食からクラブまで(カルチャ)全般に精通し、海外体験も豊富な講師が、新しい視点を紹介します。

ここがポイント! マンガ、映画、音楽などを通じて異なるバックグラウンドの人とも交流できる、さまざまなものの見方を身につけます。

担当教員 | 曾根博美 / 湯山玲子 / 吉岡洋美

子どもとソーシャルワーク

ケースワークの原則を活用し、ネット依存・不登校・虐待・ヤングケアラー・貧困などの問題に直面する子どもたちへの支援方法を探ります。子どもたちが感じる生きづらさに寄り添い、意見対立を調整しながら、彼らが幸せを感じられるための解決策を考える講義です。

ここがポイント! 動画視聴とレスポンの回答により、他の受講生の意見や考えを共有しながら学びを深めます。

担当教員 | 岩崎雅美



持続可能な 未来社会を創造する力

共生社会や持続可能な社会の実現に向けて、地球規模の環境問題への取組みはもちろんのこと、私たち一人ひとりが身の周りの生活環境にも目を向け、限りある資源の中でどのように暮らしていくかを考えることが求められています。そして、真に豊かな社会をさらに次の世代へつなげていかなければなりません。そこでこの領域では、自然と人間社会の調和、衣食住や身近な暮らしのテーマを中心に、生活科学、環境科学、自然科学などに関する学びを通し、社会活動や経済活動と両立させながら、あるべき未来の暮らしのモデルを構想する力を養います。

自然環境問題を理解する力

食品や衣類の廃棄等の社会的課題を理解する力

持続可能な社会のために必要な課題を発見し、解決のために行動する力

サステナビリティの
学びで身につく力

【抽】…抽選対象科目

区分	科目名	メディア授業	単位数	必選別	標準開設年次								開設学科・専攻															
					1		2		3		4		服美	環共	表現	栄養	管理	児学	育支	初教	英コミ	心カ	教福					
					前	後	前	後	前	後	前	後																
サステナビリティ	【抽】環境共生学		2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】SDGs入門	○	2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	【抽】自然と暮らしA(社会とエネルギー)	○	2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】自然と暮らしB(身近な自然に学ぶ)		2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】自然と暮らしC(自然と倫理)		2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】自然と暮らしD(自然と災害)		2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】自然と暮らしE(生態系と生物多様性)	○	2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】自然と暮らしF(科学の歴史)		2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】自然と暮らしG(たしかに暮らしに学ぶ)		2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】自然と暮らしH(まちづくりと起業のススム)		2	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈履修の詳細については学生便覧、時間割表などをご確認ください。授業内容の詳細についてはシラバスなどを確認してください。〉

Column 在校生の声

「高校での授業を踏まえてより深く学びたいと思った科目や、新しく興味を持った科目をシラバスに書かれている内容を参考に選びました。」 管理栄養学科 I・A



環境共生学

20世紀後半、高度経済成長とともに発生した環境問題は、いまや地球全体のエコロジー危機にまで拡大し深刻化しています。そうしたなかで、人間社会と自然環境を一体的に捉えようとする様々な試みが展開しつつあります。循環型社会や持続可能な社会などといった具体的なテーマを取り上げながら、21世紀にふさわしい環境調和的で自然共生的なあり方を考えます。

ここがポイント! 環境問題の現状や歴史的経緯を知り、環境と調和し自然と共生する人間の営みへ向けて多角的に思考し判断することをめざします。

担当教員 | 布施元

SDGs入門

SDGsの17の目標を詳しく学びながら、グローバルな視点から社会の課題に目を向け、解決への糸口を探ります。この授業を通して、それら諸問題についての理解を深めるとともに、柔軟な思考力と実践的なアプローチで問題解決の方法を学びます。SDGsの基礎知識を身につけ、現実の社会問題に向き合いながら、持続可能な未来への行動を考えます。

ここがポイント! SDGsを深く学ぶことで現実の社会課題に対して実践的な解決策を探り、将来のキャリアに役立つ知識を得ることを目指します。

担当教員 | 井上宮雄 / 池田壽文 / 片田真一

自然と暮らしA(社会とエネルギー)

環境活動家のグレタ・トゥーンベリさんの話題が大きく取り上げられるなど、持続可能なエネルギー確保・環境保全は、これまで以上にわれわれの社会の大きな課題です。経済発展との両立がその課題であることを意識し、エネルギーに関わる社会背景から最新デバイスまで、双方向コミュニケーションによる全員参加型の議論をしていきます。

ここがポイント! 人類の運命に関わるエネルギー課題に対して、総合的な視点で理解を深めましょう。理科科目が苦手な方も歓迎です。

担当教員 | 向山大吉 / 奈良洋希

自然と暮らしB(身近な自然に学ぶ)

暮らしの中に多くの自然があります。しかし、意外と身近にある自然に目をとめたり、それを目で楽しむ余裕がありません。そこで、この授業では、板橋キャンパスをフィールドに、自然と触れる遊びを通して自然を感じるとともに、キャンパス内の自然を把握し自然環境マップを製作します。さらに、それらで得た知識を基に、キャンパスの自然をめぐる情報を紹介する動画を作ります。これらの活動を通して、身近にある自然を発見して、めでもられるようになります!

ここがポイント! グループワークを通して多面的に自然と触れ合います。フィールドワークを行い発見したことを視覚化します。

担当教員 | 佐藤康富

自然と暮らしC(自然と倫理)

現代社会は、自然に対して大きな影響を及ぼす一方で、自然から大きな恩恵を受けています。人類は人類のために自然を利用し、また人類のために人類を利用しています。そこには様々な観点から高い倫理観が求められます。講義では、豊かな人間性を養い、幅広い視点を獲得するために、倫理について多面的に理解し、倫理的な課題について自ら考えることを求めます。

ここがポイント! 自然科学を学ぶにあたり関連する倫理的な事柄について、基本的な知識を身につけ、基本的な問題について自らの言葉で説明できます。

担当教員 | 関口雄祐

自然と暮らしD(自然と災害)

人間と自然とのかかわり方について、「自然災害」をテーマに追究していきます。日本は地震、火山、台風など世界的にみても自然災害が最も多い国の一つです。この自然災害の要因を自然環境(地形環境と気候環境)の側面から考察していきます。また、地図や映像判読の授業を通じ、災害予測や被害想定などのスキルを身につけ、災害適応力を育むことを目的としています。

ここがポイント! 講座のイメージは(地理+地学)÷2です。その他、災害適応力を身につけるために、大学周辺のフィールドワークを実施します。

担当教員 | 小関勇次

自然と暮らしE(生態系と生物多様性)

環境問題、生物多様性、生態系、保全…頻繁に耳にする単語ですが、それぞれの意味や成り立ちをきちんと理解しているでしょうか?一言に“自然”といっても不変ではなく、これまでもこれからも、生物同士や生物と環境との関わりの中で変化しています。生態系や生物多様性について、生物の進化や絶滅、生物と環境との関わりから学びます。

ここがポイント! 環境問題への対策が求められる現代。“考える”にはまず“知る”ことが重要です。理科や生物が苦手でも歓迎です。

担当教員 | 山科千里

自然と暮らしF(科学の歴史)

人類は科学という営みによって、世界の様々な事柄を明らかにしてきました。科学は、その理論を生み出した科学者個人に閉じた活動では決してなく、私たち人間社会と深く関わる活動でもあります。この講義では、古代から現代に至るまでの科学の歴史を、科学を取り巻く社会や、科学と関わり合いの深い技術との接点にも着目しながら概観します。

ここがポイント! 科学という営みの歴史を、それを取り巻く社会との関わりの中で理解し、科学と社会の未来を展望する視座を得ます。

担当教員 | 横井謙斗

自然と暮らしG(たしかに暮らしに学ぶ)

日常の暮らしの中で忘れられつつある大切な生活様式・考え方を、衣食住の3つのテーマから再発見し、現在の暮らしにどう活かせるかを考えていきます。衣食住をそれぞれ専門とする3人の先生によるオムニバス形式の授業です。衣はゆかたの着付け、食は出汁からつくる味噌汁、住は古民家見学といった体験的な授業として実施します。7月の日曜日には古民家見学を予定。

ここがポイント! 3人の先生による暮らしを考える多角的総合的授業です。現代の自分たちの暮らしを今一度見つめ直してみよう。

担当教員 | 手嶋尚人 / 加藤和子 / 金子真希

自然と暮らしH(まちづくりと起業のススメ)

まちづくりとは、まちの資源を活用し、まちの課題を解決したり、まちの価値を創出したりする活動のこと。また、起業とは意外と身近なもので、日々の暮らしのなかにたくさんの芽があり、そして日々の暮らしを豊かに育むもの。この授業では、とくにNPO・市民主体のまちづくりに着目し、今後のまちづくりについて考えるとともに、まちづくりにおける起業について学びます。

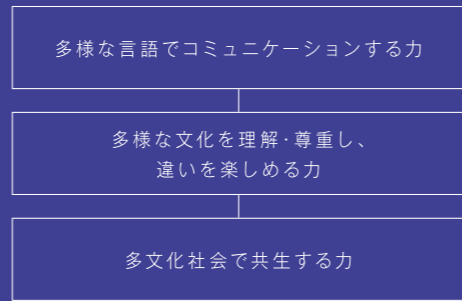
ここがポイント! よりよいまちのあり方を模索していくための視点を身につけ、そうした視点で自身の生活を捉え直していくことを実践していきます。

担当教員 | 吉野裕之



多文化共生の場面で 人々とかかわる力

国内外の社会状況の変化にともない、日本においても外国にルーツをもつ人や外国からの観光客との交流に始まり、外国企業とのビジネス上のやり取りなど、様々な場面でグローバルな変化に対応し続けることが求められています。さらに、異なる言語や文化的背景をもつ人の意見を正しく受け取るだけでなく、自らの考えなどを積極的に発信していくことも重要です。この領域では、世界の言語や文化などを学ぶことでグローバルな感性や教養を身につけ、これからさらに進むグローバル社会で活躍するために必要な力を養います。



グローバル・コミュニケーションの
学びで身につく力

【抽】…抽選対象科目

区分	科目名	メディア授業	単位数	必修別	標準開設年次								開設学科・専攻										
					1		2		3		4		服美	環共	表現	栄養	管理	児学	育支	初教	英コミ	心カ	教福
					前	後	前	後	前	後	前	後											
	【抽】 日本事情		2	選			○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 国際関係論 I		1	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 国際関係論 II		1	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 グローバルな社会と文化 A (対人ケア職における英語と異文化コミュニケーション)		2	選					○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 ♫ B (世界のことばと事情)		2	選					○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 ♫ C (「地球の旅」身体文化に着目して)		2	選					○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 ♫ D (世界の宗教と社会を知る)		○	2	選					○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 ♫ E (日本人と日本文化)		2	選						○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】 ♫ F (世界の動きと私たちの暮らし)		○	2	選						○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語 I A		[1]	必	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	英語 I B		[1]	必	○							○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	英語 II A		[1]	必			○					○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	英語 II B		[1]	必			○					○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	英語上級 A		[1]	選				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	英語上級 B		[1]	選					○			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	語学研修 A		4	選					◎			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	語学研修 B		4	選						◎		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	語学研修 C		4	選							◎		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	語学研修 D		14	選								◎		○	○	○	○	○	○	○		○	○
	語学研修 E		14	選									◎		○	○	○	○	○	○		○	○
	語学研修 F		30	選										◎		○	○	○	○	○		○	○
	ドイツ語初級		[2]	選	◎							○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	ドイツ語中級		[2]	選				◎				○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	ドイツ語上級		[2]	選								◎		○	○	○	○	○	○	○		○	○
	フランス語初級		[2]	選	◎							○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	フランス語中級		[2]	選					◎			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	フランス語上級		[2]	選								◎		○	○	○	○	○	○	○		○	○
	中国語初級		[2]	選	◎							○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	中国語中級		[2]	選					◎			○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	中国語上級		[2]	選								◎		○	○	○	○	○	○	○		○	○
	ロシア語初級		[2]	選	◎							○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	ロシア語中級		[2]	選						◎		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	ロシア語上級		[2]	選									◎		○	○	○	○	○	○		○	○
	短期ドイツ語研修		2	選								◎		○	○	○	○	○	○	○		○	○
	短期フランス語研修		2	選									◎		○	○	○	○	○	○		○	○
	短期中国語研修		2	選										◎		○	○	○	○	○		○	○
	短期ロシア語研修		2	選											◎		○	○	○	○		○	○
	日本のことばと文化 I A		[2]	必	◎							○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	日本のことばと文化 I B		[2]	必	◎							○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	日本のことばと文化 II A		[2]	必						◎		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	日本のことばと文化 II B		[2]	必							◎		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○

〈履修の詳細については学生便覧、時間割表などを確認してください。授業内容の詳細についてはシラバスなどを確認してください。〉

日本事情

日本には340万人を超える外国人が住んでおり、外国人との共生の時代と言われています。「日本事情」の授業では日本の社会、歴史、地理、文化、政治、経済等についての包括的な知識を、ハンドアウト、テレビ、新聞などを通して身につけます。そして、身につけた知識は、留学生や日本に住む外国人とコミュニケーションをとる際に有用で、社会比較の議論が出来る様になります。

ここがポイント! 日本人学生、留学生共に、日本について正確に伝えられる、グローバルな人材になる事を目指します。

担当教員 | 鈴木繁幸

国際関係論 I・II

授業内容についてはシラバスをご確認ください。

グローバルな社会と文化A(対人ケア職における英語と異文化コミュニケーション)

医療・看護・介護・保育・教職・児童支援などの対人コミュニケーションが発生するケアの場面において、適切なコミュニケーションを果たし、また文化的な相違に留意して国際的なキャリアを築くための英語とその背景を学び、英語力とコミュニケーション力を向上させることを目標とします。具体例に基づくディスカッションを通し、日常の中にある異文化理解を学びます。

ここがポイント! 国際化していく対人ケア職の現場において、文化差異についての理解は必須です。「伝わる」ケアを手に入れましょう。

担当教員 | 並木有希

グローバルな社会と文化B(世界のことばと事情)

この講座では世界の主要な言語と文化に関してその諸特徴を概観できるようになります。元大使夫人や海外生活の長い文化人、また多言語話者をゲスト講師として招き、日本と当該国との生活習慣や制度上の違い、言語や価値観、コミュニケーション形態の違いなどに関する講義を通して、主体的、能動的により深く世界を知ろうとする知的好奇心を喚起していきます。

ここがポイント! 多文化・多言語への深い理解を目指す態度の育成を図り、物事の有り様を見定める際の観察眼、思考力を養う事ができるようになります。

担当教員 | 酒井藤恵

グローバルな社会と文化C(「地球の旅」身体文化に着目して)

いろいろな国や地域をバーチャルトリップします。スポーツや舞踊、しぐさや身振りなど身体に関わる文化を手懸りに比較考察し、共通点や相違点に気づき、民族衣装から風土や習慣が、民族舞踊から歴史や生活が見えるでしょう。習得した視座から自分の尺度で異文化の理解を図ります。日本の舞踊、しぐさ、表現法などの特徴についての知識も深めます。

ここがポイント! 色々な国や地域に関して知識が深まり、価値観の違う文化に遭遇しても、お互いを尊重したコミュニケーションがとれます。

担当教員 | 梅谷千代子

グローバルな社会と文化D(世界の宗教と社会を知る)

宗教、という語を耳にすると、現代の日本人の多くが身構えてしまうかもしれません。しかし、社会のあり方の数だけ、それに応じた宗教(的なもの)が存在していると考えるとき、様々な宗教や、宗教にまつわるキーワードについて理解しようと努める試みの意義は決して小さくないでしょう。本講座では「宗教学」の客観的な視点とともに、世界の宗教文化を検討します。

ここがポイント! 社会における宗教の様相と概要について知り、多様な文化における人々と宗教の関係について、比較しつつ学びます。

担当教員 | 中島和歌子

グローバルな社会と文化E(日本人と日本文化)

国際化が進む現在において、自国の文化を知ることは、自分自身のルーツを知ることであり、他国の文化を尊重する基本です。長年に渡り我が国で育まれた文化は、現代日本の様々な文化の基になっており、気づかぬところで我々の生活を豊かなものにしています。絵巻・物語・祭・宗教・年中行事・遊楽を通じて、日本文化を自ら考える、体験することを学びます。

ここがポイント! 日本文化の特色について、基本的な知識を身につけ、日本文化を自らの言葉で説明し、多くの人に向けて発信する力を付けることができます。

担当教員 | 小谷量子

グローバルな社会と文化F(世界の動きと私たちの暮らし)

大航海時代、私たちの暮らしを変えるグローバリゼーションがはじまったとされます。それは産業革命を経て、21世紀の今日、国際経済を中心に世界の動きに影響を与えています。新しい格差、インターネットとコミュニケーション、航空産業と人々の移動は、私たちの暮らしの風景をどのように変えるのでしょうか?グローバリゼーションと日本との関係について学びます。

ここがポイント! 国際社会や国際経済の視点から、グローバリゼーションと世界、さらには、昭和、平成、令和へと至る日本の歩みについて学びます。

担当教員 | 清水聡

Column 在校生の声

「自分が気になる科目の紹介文を見たり、高校の時に受けていた授業内容を深く知りたくて、近いものを選んだりして決めました。」管理栄養学科 K・I

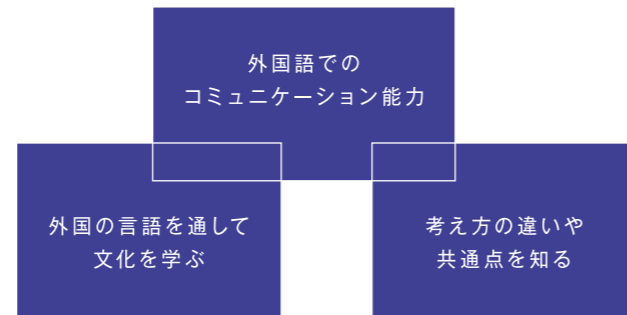


外国語科目

講義名▶ 英語Ⅰ A・B ★/英語Ⅱ A・B ★/英語上級 A・B /語学研修A・B・C・D・E・F /ドイツ語初級・中級・上級 /フランス語初級・中級・上級 /中国語初級・中級・上級 /コリア語初級・中級・上級 /短期ドイツ語・フランス語・中国語・コリア語研修 /日本のことばと文化Ⅰ A・B /日本のことばと文化Ⅱ A・B

コミュニケーションは不可欠であり、社会活動を円滑に行うにはその能力が強く求められます。特にグローバル社会においては、誰もがある程度の英語力と多様性に対応できる力を身につける必要があります。また、言語を通して文化を学ぶことができるよう、英語以外にも外国語科目を用意しています。アジア圏の言語やヨーロッパの言語も学ぶことで、それぞれの文化の違いや考え方の違い、共通点を探してみましよう。

「語学研修A・B・C・D・E・F」「短期ドイツ語・フランス語・中国語・コリア語研修」はグローバル教育センターの主催する語学研修に対応した科目となっています。研修先で外国語によるコミュニケーションの実践的な力を養います。「日本のことばと文化」は留学生の必修科目です。



ここがポイント! グローバル社会を生き抜くために、国際共通語である英語の運用能力を向上させましょう。英語以外の言語も選択科目として学ぶことができます。

英語関連科目

英語ⅠA・英語ⅠB(必修)

英語コミュニケーション能力と、グローバル社会において柔軟に対応する姿勢を身につけます。特に、話す(発信)・読む(受信)のスキルをバランスよく学びます。

英語ⅡA・英語ⅡB(必修)

英語コミュニケーション能力と、グローバル社会において柔軟に対応する姿勢を身につけます。特に、書く(発信)・聞く(受信)のスキルをバランスよく学びます。

英語上級A・B(選択)

英語ⅠA・ⅡA、ⅠB・ⅡBで習得した英語力を基盤とし、英語の情報を素早く処理する能力を高め、就職活動に役立つ英語の資格取得に挑戦できる力を養います。

その他の外国語

英語の他に選択科目として4つの外国語科目があります。

初級(選択)

コミュニケーションツールとして用いることができるように、基礎を習得します。あわせて文化・社会・歴史への関心を高めます。

中級(選択)

「初級」で習得したことをより深め、様々なトピックについて簡単なやりとりができる力を身につけます。また、文化・社会・歴史への理解をより深めます。

上級(選択)

「初級」「中級」で習得したコミュニケーション力が高めるために、より発展的な学習を通し、様々なトピックについてディスカッションができる力を身につけます。

語学研修A・B・C

英語でコミュニケーションする実践的な力を身につけます。夏期休業中及び春期休業中に実施する約1か月の短期語学研修に参加し、レベル別のインターナショナルクラスでGeneral English Courseを受講します。事前研修等は板橋キャンパスで実施します。板橋キャンパスと狭山キャンパスは学年暦が異なりますので、授業や実習、集中講義等に影響のないよう学科と十分に相談のうえ参加を検討してください。(※学生による履修登録はできません。研修参加決定後にグローバル教育センターが履修登録をします。)



社会課題に取り組み、新しい価値を創造する力

〈データサイエンス×デザイン〉では、さまざまな現代社会の課題解決に活かすための知識・技能および思考力・判断力・表現力を学びます。情報通信技術は日常生活などさまざまな場面でデータを収集することを可能としました。データサイエンスは、データから有益な情報・知見を引き出す学問分野です。この領域では「東京家政大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDACK: Mathematics, Data science, AI Certificate program in Kasei)」を利用した科目を開講し、データを正しく読み解き、活用する力を養います。一方で、データから得た知見を課題解決に活かして新しい価値を創造するためには、アイデアを具体的なカタチにし、表現する力(デザイン思考的アプローチ)も必要です。デジタルツールを活用しながらアイデアをカタチにする思考力・技能も育てます。そして、データサイエンスの視点と、デザイン思考的アプローチの交差による、DX時代のリテラシーを身につけることを目指します。

データの質を見極め、紡ぎ、活用する力

データから社会課題を発見する力

課題解決の方法を考える力

デジタルを使ってアイデアを形にする力

データサイエンス×デザインの学びで身につく力

【抽】…抽選対象科目

区分	科目名	メディア授業	単位数	必選別	標準開設年次								開設学科・専攻										
					1		2		3		4		服	環	表	栄	管	児	育	初	英	心	教
					前	後	前	後	前	後	前	後											
データサイエンス×デザイン	データサイエンス基礎	○	[2]	必	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】統計学入門	○	2	選			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】コンピュータリテラシー	○	[1]	選	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】データサイエンスと社会A(情報社会とライフスタイル)		2	選			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】データサイエンスと社会B(メディア情報と社会を読み解く)		2	選			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】データサイエンスと社会C(ロボットと人工知能)	○	2	選			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
【抽】データサイエンスと社会D(ヘルスデータサイエンス入門)	○	2	選			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

履修の詳細については学生便覧、時間割表などをご確認ください。授業内容の詳細についてはシラバスなどをご確認ください。

データサイエンス基礎 ★

保育士必 教必

データサイエンスは、データから有益な情報・知見を引き出す学問分野です。現代社会では、このデータサイエンスの視点・技術が、課題解決や新しい価値の創造に活かされています。この授業では、社会で活用されているAI・データサイエンスについての知識および自らデータを扱う能力を、講義と演習(Excel)の双方の形式によって身につけていきます。

ここがポイント! 夏季に集中講義として開講されるフル・オンデマンド形式のメディア授業です。文部科学省「数理・データサイエンス・AI認定プログラム(リテラシーレベル)」認定科目です。本科目の単位修得により、本学認定の「修了証書」を発行。就職活動に役立てることができます。

担当教員 | 天野美穂子 / 小池新 / 新関隆

統計学入門

IoT(モノのインターネット)を担うスマート機器が身近に浸透し、生成AIの活用も進展している現代において、私たちを取り巻く様々な情報が「データ」として活用される機会が世界的に広がっています。そうした「データ」を適切に活用するため、統計学的な思考やデータ処理の知識とスキルが求められています。本授業は統計学の基本を勉強することで、現代社会を生き抜く糧を得ることを目的にします。

ここがポイント! 高等学校の数学で学習する範囲の復習をしつつ、より広い観点で「データ」を扱う方法や解釈する視点を解説していきます。

担当教員 | 上田卓司

コンピュータリテラシー

コンピュータリテラシーとは、コンピュータやデジタル技術を効果的に活用する能力であり、現代社会において不可欠なスキルとして広く認識されています。本講義では、デジタル情報伝達の基本的な仕組みを理解した上で、実践的な操作スキル(文書作成、表計算など)の習得を目指します。これらのスキルは、将来のキャリアにおいて重要な基盤となります。

ここがポイント! デジタル時代の基礎力を効率的に習得できます。実践的な演習を通じて、学業やキャリアに役立つスキルを身につけましょう。

担当教員 | 高谷直樹

データサイエンスと社会A(情報社会とライフスタイル)

社会の変化を表すキーワードとしてSociety 5.0があります。また、人々に多様な考えをもたらしているベースとなるものに持続可能な開発目標(SDGs)があります。Society 5.0とSDGsをキーワードとして、私たちのライフスタイルに変化をもたらしている、社会変化と人々の考え方の多様化について、学びます。

ここがポイント! Society5.0と呼ばれる情報社会が向かう社会、SDGsへの取組を通して持続可能な社会の構築を意識した生活・ライフスタイルについて説明することができます。

担当教員 | 新関隆 / 大井龍 / 片田真一

データサイエンスと社会B(メディア情報と社会を読み解く)

現代社会を生きる私たちは、日々多様なメディアと関わりながら、生活をしています。この講義では、インターネット、SNS、テレビ、広告という4つのメディアに関する実際の事象をとりあげ、各事象の背後にあるメディアの特徴や人間の心理・行動について、社会心理学等の知見を援用しながら、グループワークを通して考えていきます。

ここがポイント! メディアを介した情報を適切に理解する力や、メディアにまつわる社会現象を読み解く力を高めていきます。

担当教員 | 天野美穂子

データサイエンスと社会C(ロボットと人工知能)

ロボットや人工知能が日常生活に現れるようになりました。あなたの生活はどう変わっていくのでしょうか?便利になる部分、思ったほどの効果がない部分、様々に分かれていきます。これからどのような社会的問題が起こると思いますか?社会や生活の今後を予測するためにも、技術の成り立ちを知り、また社会受容の歴史をふりかえてみましょう。

ここがポイント! ロボットや人工知能と一緒に暮らしていくとはどういうことなのか、考えてみませんか?

担当教員 | 村上祐子

データサイエンスと社会D(ヘルスデータサイエンス入門)

令和8年度開講予定



人々の心身の健康と ウェルビーイングを 実現する力

SDGsの目標の一つに、人が生活する中で直面するさまざまな課題に対して自分ごととして向き合いながら幸せに暮らし続けていくために「Good Health and Well-Being」が掲げられています。〈ヘルス&ウェルビーイング〉領域で、この目標をもとに、多様化する価値観の中で一個人が「健康であること」「幸せと感ぜられること」について意識できるようになること、その状態を続けるために行動できるようになることを目指した科目群です。この学びは、個人だけではなく、個人と社会、個人と環境との間でも成り立つものです。

また、「体育関連科目」には、講義科目と実技科目があります。生涯にわたり、体力・健康を維持し、スポーツや運動を有意義な形で日常生活に取り入れ、健康で豊かな人生を送るための知識と方法を習得することができます。

心身の健康の仕組みを理解する力

自他の健康とウェルビーイングを実現するために行動する力

ヘルス&ウェルビーイングの
学びで身につく力

【抽】…抽選対象科目

区分	科目名	メディア授業	単位数	必選別	標準開設年次								開設学科・専攻											
					1		2		3		4		服美	環共	表現	栄養	管理	児学	育支	初教	英コミ	心カ	教福	
					前	後	前	後	前	後	前	後												
ヘルス&ウェルビーイング	【抽】女性の健康		2	選				○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】いのちと生活		2	選				○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】生命科学	○	2	選				○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	体育と健康		1	選				◇							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	からだとスポーツA		(1)	選	○										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	からだとスポーツB		(1)	選		○									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	自然とスポーツA		(1)	選			○								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	自然とスポーツB		(1)	選			○								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】ウェルネスA(食育のすすめ)		2	選				○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】ウェルネスB(対人関係の心理学)		2	選				○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】ウェルネスC(心のレジリエンス)	○	2	選				○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	【抽】ウェルネスD(脳科学に学ぶ)	○	2	選				○							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〈履修の詳細については学生便覧、時間割表などをご確認ください。授業内容の詳細についてはシラバスをご確認ください。〉

女性の健康

女性が生き生きと自分らしく、自らのベストパフォーマンスを発揮して生きていくことができるように、心身の健康について学びます。授業のテーマは多岐にわたり、疾病についての知識はもちろん、ヨガなどの統合医学、労働環境の問題なども取り上げます。この科目で身につけた力を自らの健康に活かすと同時に、周囲の大切な人の健康にも役立ててくれることを期待しています。

ここがポイント!

自分の体調の変化や悩みを、自分でしっかり把握して、必要な時には専門家のアドバイスを受けることができるようになります。

担当教員 | 佐藤加代子 / 梅谷千代子 / 太田大介

いのちと生活

この講義では、科学的な視点で、原子レベルから分子、細胞、組織、個体、地球レベルまで、さまざまな階層での“生物(いのち)”と“生活”との関係について系統的に学び考えていきます。特に我々ヒトを含む哺乳類における脳の発生・発達・老化について深く学び考えることで、脳の可塑性(記憶)や精神・神経疾患の発症メカニズムを系統的に理解することを目指します。

ここがポイント!

“いのち”と“生活”との関係について系統的に学び、今生きていることの奇跡を感じ、かつ人にも伝えられるようになります。

担当教員 | 林恵子

生命科学 ★

理教必(管理のみ)

私達は、生活の中で生命科学に関する様々な問題に直面します。それらを理解・解決するためには、生命科学の基礎知識が不可欠です。細菌からヒトまで、遺伝子、細胞、代謝、遺伝などのキーワードを軸に生命科学の基礎を学び、生命現象の神秘、普遍性や多様性に触れてください。また、習得した知識をもとに、社会で起こる生命科学に関連する問題を考える機会にしましょう。

ここがポイント!

ヒトと関係の深い生命科学の基礎知識を学び、ニュースなどで取り上げられる生命現象に関する話題を理解することを目指します。

担当教員 | 廣田恵子

ウェルネスA(食育のすすめ)

食育とは「人をよく育て、生きる力を養う教育」であり、全世代が対象ですが、特に幼児期から青年期にかけての食育が重要とされています。生きる基本である「食」のあり方について、自らの食歴を「振り返り」、食に関わる様々な因果関係に「気づき」、食育のニーズについて「考え」、食の行動変容までの過程を「企画」し、「実践」するまでに一連の流れを学びます。

ここがポイント!

食育の現場で活躍する卒業生をはじめ、農業女子、エコロジスト等をゲストスピーカーに迎えたオムニバス形式で展開します。

担当教員 | 内野美恵 / 相澤菜穂子

ウェルネスB(対人関係の心理学)

社会生活を営むうえで、人は少なからず他者との関係を持つこととなります。良い人間関係は生活を豊かにし、上手いかな人間関係は大きなストレス源となってしまいます。対人関係は個人の心理的健康と深く関わってきます。本科目では、対人関係に影響を与える心理学的な視点に基づく知識と技能を学んでいきます。

ここがポイント!

対人関係について心理学的な視点に基づいて知識を身につけ、体験を通して対人関係に関するスキルの活用を目指します。

担当教員 | 亀田秀子

ウェルネスC(心のレジリエンス)

レジリエンスとは、人が落ち込みから回復する力や、逆境の中で適応できる力を表す概念です。レジリエンスの研究や測定方法を学び、レジリエンスを促進するための介入技法について体験的に学びます。自らのレジリエンスの理解、および個々人のレジリエンスの多様性について理解したうえで、実際に身近な他者のレジリエンスを理解することを目指します。

ここがポイント!

レジリエンスの概念およびその多様性を体験的に理解し、自分自身の心や他者の心の理解に応用することができます。

担当教員 | 平野真理

ウェルネスD(脳科学に学ぶ)

脳はこころの源です。みなさんが見たり、聞いたり、感じたり、考えたりすることはすべて脳が作り出すこころの機能です。私は心理学者として、脳とこころ(行動)の関係について研究しています。本講義では、主に動物を研究対象として明らかになってきた脳とこころの関係について、記憶、愛情、依存、共感性などを中心に、最近の研究知見に基づいてお話しします。

ここがポイント!

心理学的な観点から脳についての話をしますので、生物学の知識がなくても理解できます。理系科目は苦手という人でも大丈夫です。

担当教員 | 山田一夫

体育関連科目

講義名 ▶ 体育と健康 ★ / からだとスポーツA・B ★ / 自然とスポーツA・B

講義科目として「体育と健康」、実技実習科目として「からだとスポーツA・B」、「自然とスポーツA・B」で構成されています。これらの科目は生涯にわたって皆さんがスポーツや運動を有意義な形で日常生活に取り入れ、健康で豊かな人生を送るための知識と方法を習得することを大きな目標としています。

ここがポイント!

運動が得意な人もそうでない人も、自分なりに楽しく体を動かす授業。友達も増えます。思い切り体を動かして、心も体もスッキリ!

具体的な目標

- 1 体力を維持増進し、健康を管理する習慣を獲得するために必要な知識や態度を学びます
- 2 運動やスポーツの楽しさを再確認し、身体や心への効果を実感します
- 3 充実した大学生活を送るために社会的な規範を学び、学生同士あるいは教員との円滑なコミュニケーション力を形成します

講義科目

体育と健康(選択)

生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を学び、自分に合った心身の健康習慣を身につけます。

教選必 保育士必

実技実習科目

からだとスポーツA・B(選択)

運動能力や体力で評価しないので、苦手な人も安心して運動・スポーツに取り組みます。楽しみながら自己の健康を管理します。

教選必 保育士必

ボールゲームス、テニス、バドミントン、卓球、ボディメイク、レクリエーションスポーツ等

自然とスポーツA・B(選択)

自然環境を利用したアウトドアスポーツを取り上げ、集中実習形式にすることで学内では経験できない内容を展開します。

キャンプ、スクーバダイビング、スキー・スノーボード等

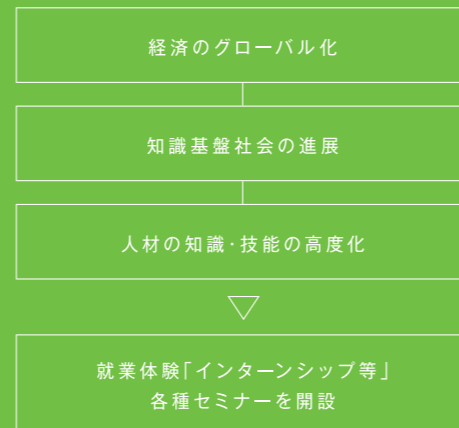
※「自然とスポーツA・B」は定員があり、希望をしても抽選になることがあるため、履修できないことがあります。1年次の12月に事前参加予約登録会がありますので、希望者は必ず出席しましょう。

※体育関連科目は教職課程履修者と保育士課程履修者には選択必修科目(合計2単位)となっており、「体育と健康」「からだとスポーツA・B」が該当科目となっています。

自分を知り、社会を知り、 共感型リーダーシップを 身につける

全学共通教育科目のコア科目においては、建学の精神「自主自律」、生活信条「愛情・勤勉・聡明」について考え、大学でどう学び・社会でどう生かすのかについて学んでいきます。そして、それらの学びと並行して、社会でより実践的に楽しく生きていくための人間力を身につけることが人間力育成実践科目の目的となります。

「キャリア形成支援講座」では、学生は自分の将来像と社会・職業の関係を学び、自らの志を持って進むべき道を確認なものにし、そのための資質・能力を備えることを目指します。この目的のために、実際に就業を体験する「インターンシップ等」、そのための準備や振り返り、新たな目標設定の場として事前指導や事後プログラムを開設しています。「実践力養成セミナー A・B」では、これからの社会において、重要となる共感型リーダーシップを身につけることで人間力の向上を計ります。Aではレクリエーション、Bではチームづくりの活動を通して養成していきます。



キャリア支援課では、みなさんが将来、希望する進路にすすめるよう、就業体験「**インターンシップ等**」への参加をサポートしていますので、ぜひ参加してください。以下指定の講座やプログラムの受講、インターンシップ等への参加、条件を満たし報告書を提出することで、「キャリア形成支援講座」のポイント(単位)を取得することができます。

インターンシップ等とは

学生が在学中に、企業などにおいて自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと。

インターンシップ等の目標

- ① 社会のしくみを理解する
- ② 働くイメージを持つ
- ③ 自分の強みと課題を明確にする
- ④ 就業体験を通じて、大学での学びの重要性を知る



※インターンシップ等についての詳細は、インターンシップガイダンスに参加し確認してください。
 ※授業・実習等により講座やプログラムに参加できない場合は、必ず事前に申し出てください。

人間力育成実践科目 ▶▶▶ 実践力養成セミナー A (レクリエーション・リーダー養成)

この授業は、「楽しさを体験する」時間と「楽しさを組み立てる」時間で構成されています。まず参加者として様々なレクリエーション種目の楽しさを体験しましょう。次に、その楽しさをふりかえりながら構造を理解し、指導者の立場から組み立てて相手に贈る方法を学びましょう。この授業は、教員(幼小中高栄養養護)を目指している人、こどもたち、お年寄り、ハンデのある方を対象としたボランティアに参加する人には特にヒントになるプログラムです。なお、この科目の単位はCAP制の対象外です。

☆1 授業日程および履修上限

第1期:9月1日(月)~3日(水)90名

第2期:9月8日(月)~10日(水)90名

*3日間で14回授業相当分を展開します。

担当教員 | 木村博人/北原澄高/布施梓/伊藤相

☆2 履修者の決定について

抽選科目ではないため、履修登録後に高学年優先で180名に受講人数を制限します。1、2期へ振分けて履修者名簿を5月第2週以降に発表する予定です。

その名簿にて参加の可否を確認してください。また、受講期ですが必修の実習や集中授業と重なる場合は体育学研究室木村のところにまで相談に来てください。

授業計画

	1日	2日	3日
1	楽しさを体験する アイスブレイクゲーム	楽しさを体験する ニュースポーツ	楽しさを体験する ウォークラリー1
2	楽しさを組み立てる アイスブレイクの仕組み	楽しさを組み立てる ニュースポーツの理念	楽しさを体験する ウォークラリー2
3	楽しさを体験する GWT※	楽しさを体験する クラフト工作	楽しさを組み立てる ウォークラリー振り返り
4	楽しさを組み立てる GWTの振り返りと仕組み	楽しさを組み立てる クラフトの楽しさを理解する	各レク財(種目)の振り返り レクリーダーの視点
5	アイスブレイクゲームと GWTの振り返りとまとめ	ニュースポーツ、クラフト の振り返りとまとめ	振り返りノートの作成

※グループワークトレーニング

授業の到達目標

- 1 様々なレクリエーション種目の楽しさを体験する。
- 2 レク支援の仕組みを学ぶ。
- 3 レク種目の指導方法を学ぶ。

人間力育成実践科目 ▶▶▶ 実践力養成セミナー B (ファシリテーター養成)

ファシリテーションとは、グループワークや意見交換が円滑に進むように舵取りをすることです。ファシリテーションによってメンバー間の相互作用を高め、ありがたい状態へ導くことが可能です。この授業ではファシリテーターに必要な基本スキル(アイスブレイキングの活用等)、問題解決の効果的な進め方、仲間の強みを引き出すポジティブなチームづくりを体験学習の形式で楽しく学びます。チームづくりに興味がある人、教員をめざす人、企業で活躍したい人におすすめの授業です。 担当教員 | 松瀬理保

授業計画 (夏期休暇中の集中授業を予定しています) ※全14回(3日間実施)

	1日	2日	3日
1	ファシリテーションとは	ファシリテーションスキル① :傾聴・承認・質問のスキル	ポジティブなチームづくり :概論、導入事例の紹介
2	ワークショップ体験① GW:レゴを使うゲーム	ファシリテーションスキル② :合意形成(拡散と収束)	ワークショップ体験① GW:ペアインタビュー
3	ワークショップ体験② GW:体を動かすペア演習	模擬ファシリテーション① GW:問題解決を促進する	ワークショップ体験② GW:ストーリー共有、内省
4	ワークショップ体験③ GW:意見を整理する	模擬ファシリテーション② GW:グラフィックを活用する	全体のふりかえり・まとめ
5	体験のふりかえり 「アイスブレイクの効果」	体験のふりかえり 「ファシリテーターの役割」	

※GW:グループワーク

授業の到達目標

- 1 グループワークの効果的な進め方をゲーム形式で楽しく学ぶ。
- 2 ファシリテーションの基本を理解し、問題解決を促進できる。
- 3 みんなが主役になれるポジティブなチームづくりを学ぶ。

人間力育成実践科目

〈Kポイント8〉

自らの興味関心に基づき 主体的に動く

現代は、AIをはじめとした科学技術が急速に発展し、モノや情報があふれ、価値観が多様化しています。このような社会の中では、何が重要かを自らの意思で判断し、適切に取捨選択していく力が求められます。〈Kポイント8〉では、一人ひとりの興味関心に基づく主体的な活動を通して、総合的・横断的な知識、多様な思考法、学びのスキルを身につけることを目的としています。すでに興味関心のある活動に参加しても良いですし、これまではあまり参加したことのない活動にチャレンジしてみることも可能です。また、この科目では1~4年次にかけて必要なポイントをためることで単位の修得を目指します。いつ・どの活動に参加して何ポイントを取得するかなど、自己管理能力や計画性の向上が期待できます。

主体的に考え、行動する

自らの興味関心を大切にする

新たな価値と出会う

01 活動開始前 manabaのコースコンテンツに掲載されている「Kポイント8」の当該年度の講座内容一覧を参照し、行動計画を立てる

- 卒業年度の12月までに活動を終了できるよう、計画を立ててください。
- 講座内容の詳細は、記載されている部署等の問合せ先に確認してください。

02 活動終了後 報告書を作成する:ポイント判定の期日は活動した年度の12月中

K-PORTにログインし「Kポイント8」の画面に進んでください。
参加内容を記入し、チケット半券の写真をアップロードしてください。

03 ポイント入力 ポイントを入力する

K-PORTの「Kポイント8」画面の上部にある「ポイント数」に活動で取得したポイント数を加算して上書きしてください。
※取得ポイント数は自動計算されませんので、自身で手動で合算ポイント数を入力してください。

04 ポイント確認 取得ポイントを確認する

K-PORTの「Kポイント8」画面の上部にある「ポイント数」で取得した合算ポイント数を確認してください。

05 履修登録 合算ポイント数により、各自で履修登録を行う

登録方法 ▶▶▶ 大学1~3年生

8ポイント貯まった翌年度の履修登録期間に、各自Web登録をしてください。
※8ポイント貯まる前に履修登録をしないでください。(成績が「不合格」となります)

登録方法 ▶▶▶ 大学4年生

卒業学年でポイントを満たそうとする場合のみ、履修登録期間に、各自Web登録をしてください。
※8ポイントを満たすことが見込めない場合、その年度に「Kポイント」の履修登録をしないでください。(成績が不合格となります)

注意事項 誤って履修登録した場合でも、登録の削除はできません。

06 単位と成績 単位・成績を確認する

単位 全学共通教育科目 **1単位**(単位認定を受けられるのは1度のみです)

成績 成績は、「合格」と表記されます。ポイントを満たせなかった場合は、「否」と表記されます。

注意

- 報告書や証明資料などの原本は、必要に応じて提出を求められる場合がありますので、卒業するまで各自大切に保管してください。
- 人数制限のある講座は、各主催部署において、別途参加申込が必要となります。
- 授業を欠席しての活動は認められません。
- 全学年が学生教育研究賠償責任保険に加入しています。(入学時にしおりを配布)
「Kポイント8」としてボランティア活動を行う場合、国内の活動に限り上記の保険が適用されます。
- 講座内容(中止を含む)や「Kポイント8 報告書」等の提出方法については、その年度の社会情勢や大学の方針により変更になることがあります。manaba等で公開されている最新の情報を各自確認してください。



まずは、「manaba」にログインしましょう。

※左画像内のオレンジ線部をご確認ください

登録キーを使用して、科目を登録します。



01 マイページから「登録キーを用いて登録」をクリックします。

02 登録キー「1579008」を入力します。

03 コース名:全学共通教育科目「Kポイント8」を確認し、間違いなければ「登録」をクリックします。



マイページから ▶▶▶ コーストップページへ

04 ログイン後、マイページのコース一覧からコース名:全学共通教育科目「Kポイント8」をクリックするとコースのトップページが表示されます。

05 コースコンテンツやコースニュースにて随時情報を掲載していきますので、各自でご確認ください。



ログアウト

06 マイページ上部右上の「ログアウト」をクリックします。

※共同で利用するパソコンを使う場合は、ログアウトを徹底して下さい。ID・パスワードが悪用される恐れがあります。また友人であってもトラブル防止のためID・パスワードの貸し借りはしないでください。



教職課程科目 | 一覧表

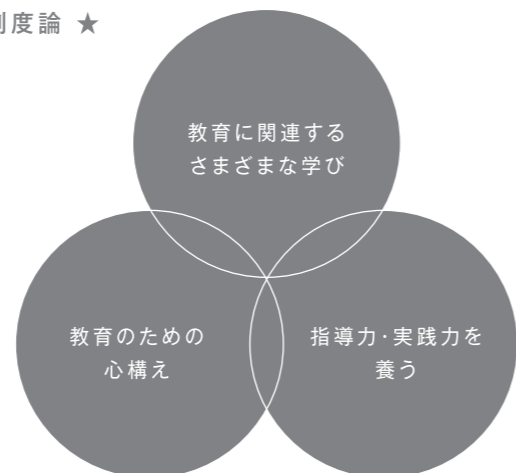
区分	科目名	単位数	必選別	標準開設年次								開設学科・専攻										
				1		2		3		4		服美	環共	表現	栄養	管理	児学	育支	初教	英ミ	心カ	教福
				前	後	前	後	前	後	前	後											
教職課程科目	児童学科	教育原論	2	選		○									○	○						
		教育心理学	2	選	○										○	○						
	初等教育学科	教育原論	2	選	○												○					
		教職基礎論	1	選	●												○					
		教育心理学	2	選		○											○					
		教育制度論	2	選			○										○					
	栄養学部 人文学部 家政学部	教育原論	2	選		○				○	○	○	○	○				○	○	○		
		教職基礎論	1	選	●					○	○	○	○	○				○	○	○		
		教育心理学	2	選		○				○	○	○	○	○				○	○	○		
		教育制度論	2	選			○			○	○	○	○	○				○	○	○		

〈履修の詳細については学生便覧、時間割表などを確認してください。授業内容の詳細についてはシラバスなどを確認してください。〉

教職課程科目

講義名 ▶ 教育原論 ★ / 教職基礎論 ★ / 教育心理学 ★ / 教育制度論 ★

教育職員免許状の取得にかかわる科目のうち「教育原論」「教職基礎論」「教育心理学」「教育制度論」の4科目を全学共通教育科目としています。教職を志望する学生は1年次に教職課程の履修登録をしたうえで、これらの科目を必ず履修し、自身の教師としての適性をみる機会としてください。本学では、子どもに対する深い愛情と教職に対する情熱とともに、豊かな感性、高い見識および卓越した指導力・実践力を有する教師の養成を目指しています。そうした教師を目指して一歩ずつ着実に取り組んでいきましょう。



ここがポイント! 教職課程の単位としても全学共通教育科目の単位としても数えることができます。あなたの教師としての適性をみる機会としてください。!

Column 在校生の声

「大学生になって自分の学びたいことが学べるという貴重な機会、自分の好奇心の赴くままに選び、後悔していません。自分が学ぶ専門分野に近い科目で学びを深めたり、それとは異なる科目で教養を深めたり、他学部や他学科の友達を作るきっかけにもなっています。」 **教育福祉学科 M・S**



全学共通教育科目の相談・質問はこちらへ

全学共通教育推進部

窓口：百周年記念館1階 受付時間：平日9:00~17:00 / 土曜日9:00~12:00

※夏期・冬期休業中の受付時間は別途提示します。

メールアドレス：gakkjimu2@tokyo-kasei.ac.jp

電話番号：03-3961-5624

発行年：2025年2月 構成・編集・発行：東京家政大学 共通教育推進部
デザイン：ZENN design studio 印刷製本：上毛印刷株式会社

